

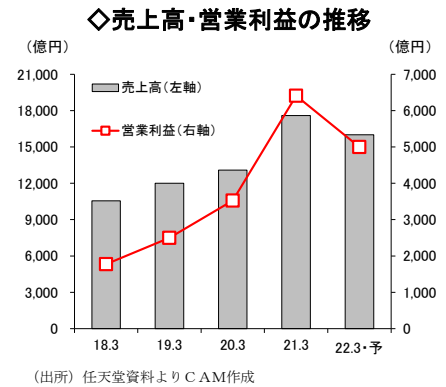
企業ニュース 任天堂

(東証1部：7974) <https://www.nintendo.co.jp>

作成者：村上大志

有機EL搭載のNSを10月に発売予定

「ファミコン」や「ゲームボーイ」、「Wii」、「ニンテンドーDS」、「Nintendo Switch (以下NS)」などヒット商品を多数有するゲーム機メーカー。NSは今年で発売5年目を迎えるが販売は堅調で、6月末時点での累計販売台数は8,900万台超。10月に有機ELディスプレイを搭載したNSを発売予定。「マリオ」や「ポケットモンスター」など、国内外で人気の高い強力な自社IP（知的財産）を持つ。IPの多方面への展開を進めており、3月にはUSJ（ユニバーサル・スタジオ・ジャパン）の新エリアとして「スーパー・ニンテンドー・ワールド」を開業した。なお、10月1日から日経平均株価の構成銘柄に採用されることが発表されている。



前年同期の反動減があるが、NSの販売は堅調

22.3期・第1四半期（4-6月）の連結業績は売上高が3,226億円、前年同期比10%減、営業利益は1,198億円と、同17%減。NSの販売台数は、ハード（NS Lite含む）が445万台、同22%減、ソフトが4,529万本、同10%減と、昨年3月に発売した「あつまれ どうぶつの森」の大ヒットの反動減により減少した。ただし、NSのみの販売台数は前年同期を上回っており、自社ソフトは「あつまれ どうぶつの森」の影響を除くと前年同期を超える販売規模となった。

22.3期の会社計画は売上高が1兆6,000億円、前期比9%減、営業利益が5,000億円、同22%減。ハードでは10月に有機ELディスプレイを搭載したNSを、ソフトでは10月に多人数でプレイ可能な「マリオパーティ スーパースターズ」、11月に「ポケットモンスター ブリリアントダイヤモンド・シャイニングパール」などを発売する予定。年末にかけ新規タイトルの発売を多く控えており、クリスマス商戦での販売拡大が期待される。モバイルビジネスでは、人気キャラクターの「ピクミン」を起用したアプリを年内に配信予定。

【株価動向・投資判断】

NSの販売減が嫌気され株価は下落したが、新型ハードや新規タイトルの発売により年末にかけ販売規模の拡大が期待できよう。

<7974 任天堂 業績：日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20.3	1,308,519 (9)	352,370 (41)	360,461 (30)	258,641 (33)	2,171.2	1090.00
21.3	1,758,910 (34)	640,634 (82)	678,996 (88)	480,376 (86)	4,032.6	2220.00
22.3 予	1,600,000 (▲ 9)	500,000 (▲ 22)	480,000 (▲ 29)	340,000 (▲ 29)	2,854.2	1430.00



【主要株価指標】 (売買単位：100株)	
株価 (2021/9/10)	55,270 円
年初来高値 (高値日)	69,830 円 (21/2/17)
同 安値 (安値日)	50,530 円 (21/8/11)
予想 P E R (22.3 予)	19.4 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	15,322.5 円
P B R	3.61 倍
予想配当利回り	2.59 %
(1株当たり配当金年1430.00円)	
R O E (21.3)	28.1 %
発行済み株式数	13,167 万株